九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

ストーリー・マンガの作品を利用した、異文化間理解教育の教材とプログラムの開発

因，京子
九州大学留学生センター准教授

松村，瑞子
九州大学言語文化研究院教授

https://hdl.handle.net/2324/16838

出版情報：日下翠教授中国文学・漫画学著作集成，2008-03
バージョン：
権利関係：

ストーリーマンガで学ぶ日本語と日本社会

因　京子（ちなみ　きょうこ）
九州大学留学生センター・比較社会文化学府
chinami@isc.kyushu-u.ac.jp

要旨：

ストーリーマンガは、社会文化的技能養成のための教材として機能し得る。日本社会の様々な局面を描き出し、生き生きとした話し言葉を豊富に含んでいるため、複合的な要因によって文体や表現が使い分けられ、文脈の中で様々な効果を発揮する様相や、日本の文化的価値観に基づいたポライトネス・ストラテジーなど、教科書による提示が難しい日本語の語用論的側面について理解を進めることができる。しかし、筋を直観的に理解するだけでは、話し言葉を総合的に観察できるというこの媒体の長所を生かすことにならないばかりか、日本語や日本社会について偏った信念や過剰な一般化を促す危険もある。教材に適した豊かな言語現象を含む作品を選択し、言語と言語行動について綿密な分析を行って、適切なタスクを提供することが必要である。

キーワード：ストーリーマンガ、社会文化的技能、受信技能、文体的特徴、ポライトネス

1.　はじめに

本稿の目的は、筆者がこれまで行ってきた「上級者用マンガ読解コース」の実践に基づいて、ストーリーマンガの作品が日本語教育の教材として貢献しうる分野を具体的に提示し、それによってストーリーマンガ教材化の方法論の一端を示すことにある。

教材としての利用法の議論に入る前に、日本におけるマンガの位置づけと、筆者がマンガの利用を始めるに至った経緯を簡単に述べておきたい。日本において、マンガは文化の一分野としての認知を得たと言っていいだろう。1980年代以降、夏目房之介、大塚英志、四方田犬彦、呉智英、藤本由香里、荷宮和子らによる漫画評論が次々に出版され、米沢嘉博の一連の著作など、歴史的な流れを把握しようとする試みも行われた。研究活動も広がりを見せ、2001年には「日本マンガ学会」が設立された。大学の中にもマンガ研究に位置を与えるところが現れつつある。九州大学では、日下翠が『漫画学のススメ』(2000 白帝社)、『漫画学入門』(2002 中国書店）を出版するとともに講義やゼミを提供して、マンガ研究への先鞭をつけた。日下の編集した論文集『漫画研究への扉』(2005 梓書院）は、アジアやヨーロッパ諸国におけるマンガ事情、マンガの言語、マンガの教育への応用などについての論文が収録され、マンガ研究の多様な可能性を示している。九州大学比較社会文化学府で博士号を得た竹

内一郎の研究は、『手塚治虫=ストーリーマンガの起源』(2006 講談社) として出版され、2006 年のサントリー学芸賞を授与された。

しかしながら、マンガ作品の日本語教育への利用はあまり進んでいるとは言えない。4 コママンガや長編マンガから抜粋した台詞を用いた教材(『マンガで学ぶ日本語』2004 アスク、*Japanese the Manga Way* 2004 Stone Bridge Press など) が提案されているが、いずれも文法項目や慣用表現などをわかりやすく提示するためにマンガの視覚的側面を利用したもので、目的も素材利用の方法も限定的である。ストーリーマンガの作品に描かれる日本の姿は必ずしも現実の忠実な反映ではないが、日本の社会の実に多様な側面を掬いあげており、使用される言語も多彩である。したがって、適切な作品を選んで適切に教材化すれば、学習が最も難しいとされている日本語の語用論的特徴、即ち、発話者の社会的地位だけでなく場・個人の意図・社会的価値観・文化的慣習などの要素が言語使用にどのように反映されるかを具体的に示すことができ、日本語及び日本文化への理解を進めるための強力な方法となり得る。

筆者は、平成 11 年以来科学研究費補助金の助成を受け、ストーリーマンガを用いて異文化理解教育や日本語教育を行う方法の開発を行ってきた。この一連の研究を始めたきっかけは、日本語教育の分野で高度の社会文化的技能を養成する方法が提案されていないという問題意識であった。日本語学習者が増加しその裾野が広がると共に、上級・超級のレベルの運用力を身につけたいと希望する学習者も増えているが、提供されている上級の会話教材は非常に限定的なものにとどまっている。殆どの場合、目標となっているのは相手との利害の衝突の危険を孕むような言語行動をどう円滑に有利に行うかであり、学習の手法は、種々の場面でのモデル会話や場面の条件が変わった場合の変化を示し、ロールプレイによって練習するというもので、相手に失礼のないように話を進めるということが絶対的前提条件となっている。そうした技能は確かに重要なものではあるが、類型化されたモデルを提示して応用的模倣による発話を行わせるという手法には個人の闊達な自己表現を促す方向の発展は含まれていない。本当の上級、超級の運用力とは、無限に多様な現実の中で個性を持った個人の発する言葉を深く理解し、自らも個性を持った個人として思考や感情を闊達に表現する運用力、言い換えるならば、皮肉と冗談、遠慮と敬遠とをちゃんと見分け、行儀のよい発話だけでなく、ざっくばらんな発話や冗談、ときにはからかいや皮肉や当て擦りも言えるような運用力を指す。これを涵養するには、これまでとは異なる目的意識と方法の考案が必要である。何にもまして、発話場と発話者と発話の形式との関係を全体的に観察することができる素材が必要である。ストーリーマンガは、この要求に応える特徴を備えている。

2. ストーリーマンガによって何ができるか

闊達な運用力を獲得するには、発話を十分に理解する技能を持つことが必須である。しかしこれまで、「聞きとり」の訓練は熱心に行われてきたが、音声の聞き取りができるようにな

った後の受信、即ち「解釈」の訓練は殆ど行われていない。殊更に訓練をしなくても自然に発達すると期待されているようである。ところが、日本に一定以上の期間滞在し流暢に話せるようになっている学習者でも、発話解釈に意外なまでに失敗することが観察されている(因 2004b、2005a)。語学の訓練ではとかく発信技能に関心が集まりがちであるが、社会文化技能の向上のためには、解釈という意味での受信技能を訓練することを目標に据える必要がある。

解釈の訓練のための素材として、ストーリーマンガは理想的といってもいい条件を備えている。最大の利点は、大量の話し言葉をそれが発せられる場面だけでなく前後の全体的な背景事情と共に提示し得ることにある。しかも、音声という直観に訴える情報源がなく文字という静止した媒体によって示されるため、細かな形式的特徴を観察することができる。ストーリーマンガを教材化するにはこの特徴を十分に生かし、形式に反映される発話者の微妙な意図や個性、更にはその奥にある社会文化的前提に学習者の意識を向けさせることが重要である。

ストーリーマンガによって意識化できる項目には少なくとも以下のようなものが含まれる。これらは、どれも初級や中級の段階で提供される単純化された説明だけではその実相を伝えることが難しい項目である。

(1)対者敬語・素材敬語の使われ方：

敬語の使用については初級や中級で通常「社会的地位の上下」「個人的関係の親疎」を軸とした説明が行われるが、実際の運用は遙かにダイナミックで、その効果も一様ではない。例えば、対者敬語の使用・不使用の選択、即ち、普通体と丁寧体の選択は、基本的には発話者と相手との地位や関係、発話場の種類に依存するが、一定の範囲と条件の中で選択の余地がある上、談話の中で交替がしばしば起こり、発話者の配慮や態度を表示していることが観察されている（松村・因 2000)。普通体の使用は相手へのぞんざいな態度の表示でもあり得るが、親密さを深めようとする意図の表れともなり得、その解釈には発話者の相対的地位が決定的要因として影響を与える。素材敬語（尊敬語）の使用も、敬う気持の表示とも忌避する気持の表示ともなり得る。ある敬語形式の解釈は、制度的要請に従っているだけなのか積極的に選択して使っているのか、親和的な意図と対立的意図のどちらに基づいているのか、相手志向か自分志向かなどの諸要因によって異なったものとなる（因 2005d)。

筆者の観察によると、かなり流暢な発話能力を備えた学習者であっても、「敬語使用は敬意の表れ、その不使用は敬意の欠如の表れ」という信念に基づいて固定的な解釈を行っていることが驚くほど多い（因 2004b、2005a)。ストーリーマンガのせりふには多彩な効果を持つ敬語使用・不使用の例が含まれており、敬語使用の実態についての理解を深めることができる。

(2)ジェンダー標示形式の使われ方：

「男ことば、女ことば」と呼ばれてきたジェンダー標示形式は、話者の性別によってその使用が強制されているわけではない。近年はあまり使用されなくなっているという報告（尾

崎 1997、小川 1997）もあるが、特定の気分に応じて多用されるという分析（谷部 2006）や、談話ストラテジーとして使用される可能性を指摘した研究もある（因 2003、2004a、2005b、2006a、2007a)。ストーリーマンガには、ジェンダー標示表現のステロタイプ的使用例だけでなく、応用的・技巧的な使用例も多く含まれており、適切な解説を補って観察を促せば、これらの形式の現代的な位置づけについてバランスの取れた理解を進めることができる。

⑶文脈に依存する形式の用法：

例えば「のだ」の使用は文脈上の繋がりによって要請されるものであり、その意味も文脈に依存する。談話展開や話者の態度の標識（「じゃあ」「とにかく」「やっぱり」「だって」「だから」他)、間投詞（「おっと」「こら」他）やオノマトペなども、説明的記述によってその機能を十分に提示するのは難しい。これらの形式の提示には、ストーリーマンガを利用することが有効である。

⑷発話行為の実現形態の多様性：

作品によっては、「新任の挨拶をする」「文句を言う」「慰める」など特定の発話行為の複数の実現形態が描かれたものがあり、発話行為の行い方が多様であることを知ると共に、形の選択に影響を及ぼす要因について観察するのに絶好の素材となる。学習者は、発話行為の実現形態に影響する要因として、目上か目下かという要素だけを重視しがちであり、また、形式的丁寧度を上げるほど丁寧になるという素朴な信念を持っている者が少なくない。言語形式の選択に影響を及ぼす要素の多様性を認識し、また、「どう言うか」を考える以前に、「何を言うか」、あるいは、「言うか言わないか」をも考慮しなければならないことを具体的に認識させることができるのは、単に一つの場面だけでなく、複合的な世界を提示するストーリーマンガならではの特性である。

⑸ポライトネス・ストラテジー：

ポライトネス、特に、ポジティブ・ポライトネスの実現の技能を養成することは難しいとされている。親しくなりたい気持ちを示すつもりで馴れ馴れしすぎる表現を行ったり、ざっくばらんな態度を示したつもりで不作法な表現を行ったりすることは、人間関係維持上かなり重大な問題を引き起こす危険性がある。留学生と日本人学生との間のコミュニケーション上の問題点を分析した研究（田中・藤原 1992、梶原 2003）によると、滞在の長い学習者であっても相互理解に種々の問題が存在することが報告されているが、その中には、ポライトネス・ストラテジーのずれによって引き起こされた誤解が少なからず含まれていると推測される。ストーリーマンガを教材として用いれば、学習者の直接体験よりもずっと多様な人間関係や場面を題材として、言語表現や行動についてポライトネスの観点から率直な議論を行うことができる。

⑹文化的価値観：

マンガに登場する人物や描かれる出来事は決して現実そのものではないが、人々の夢や憧れ、社会的前提や価値観を反映している。例えば、筆者が「市井のヒーローたち」というシ

リーズで取り上げた作品の主人公たちは、高い能力と高潔な心を持つヒーローなのであるが、どこかに大きな欠点や弱点を持つ、いわゆる「ずっこけた」男たちである。こうしたヒーロー像を好むのは何故なのか、また、彼らの弱点や欠点は少なくとも日本文化の中では致命的なものとは考えられていないわけであるが、この見方に賛同できるか、などの点について議論を行えば、日本文化及び自分の出身地の文化の価値観に対する理解を進めることができる。

以上、ストーリーマンガを社会文化的技能の向上のために利用する方向性を示した。

3．言葉から何を読み取るか

本節では、ストーリーマンガの中の会話例を二つ取り上げ、学習項目となり得る語用論的特徴がどのように表れているかを分析し、併せて、学習者の典型的理解の一端を示す。単純な内容しか持たないように見える発話からも多彩な意図や態度や価値観を読み取ることができるが、学習者は見落としたり誤解したりしていることが少なくない。

会話例１：森本梢子『研修医なな子』第65話「医師と看護婦」より

このエピソードには、看護婦が医師を急きたてる会話①、②、③が含まれている。

①　(看護婦と若い女性研修医の会話)

医師：(走って来て)ひゃーっ、すみませーん。

看護婦：あっ、もーっ、おそいっ、おそいっ、おそいですよっ。

医師：ごめーん

看護婦：患者さん、もうずーっと待ってますよぉ。

②　(医師よりも年長の温厚そうなベテラン看護婦と中堅の医師との会話)

看護婦：木村先生、おくつろぎのところ申し訳ありませんが、今すぐとっとと内視鏡室に来てください。先生の当番でしょ。

医師：えっ、あれっ、きょう僕だった？

看護婦：はい、「僕」です。

医師：すぐ行きまーす。

③　(非常に几帳面で神経質そうなベテラン看護婦と若い女性研修医の会話)

医師：(走ってきて)お待たせしてすみませーん。

看護婦：杉坂先生っ時間はお守りにならないと困りますっ。後がつかえておりますからっ。

医師：いやーっ、廊下で患者さんの家族につかまっちゃって・・・

①では、年齢の近い気安さからか看護師の方はずいぶん直截的に遅れたことを責めているが、直截的であることが却って底意のないことを感じさせ、医師のほうも「ごめーん」とざっくばらんに謝っている。文末レベルは、医師は普通体と丁寧体の両方、看護師は丁寧体のみを使用している。②の看護師は、「とっとと」という悪態を吐く発話に用いる副詞を故意に使用し、「僕です」と相手視点を採用した人称の使用という通常は幼児に対して行う行動を取って

いる。これらはもちろん「冗談」である。一般的に目下から目上には使いにくいとされている「冗談」というポジティブ・ポライトネス・ストラテジーを職業的には主導的立場にある医師に対して使えるということから、彼女はこの医師がごく若くて頼りないときからサポートしてきたベテランなのであろうと推測される。しかし、文末レベルは、医師は普通体と丁寧体の両方を使っているが、看護師の方はずっと丁寧体を維持している。③は、形式的には最も丁寧度が高いが、そのことが却って「医師という敬意を払われるべき立場にありながら内実が伴っていない」ことを際立たせ、厳しい非難として機能している。即ち、①-③を対比的に眺めることによって、次のような語用論的特徴が観察できる。

1)「相手の落ち度を責める」という発話行為にも様々なやり方がある；

2)攻撃的発話行為を丁寧度の高い言葉で行うことは、直接的な言葉で率直に行うよりも、攻撃性を際立たせるかもしれない（①と③の比較）。逆に、率直な攻撃は深い攻撃性を含まない可能性がある。

3) 攻撃性のある語彙を故意に使用することは「冗談」を形成する（②）；

4) 丁寧体と普通体の使用は社会的立場によって規定されている。上位者は下位者に対して両方のレベルのどちらも使えるが、下位者は上位者に対して丁寧体を用いる（①、②、③）。この制約は、個人的な親密さによって解除されない（②）；

4)「冗談を言う」というポジティブ・ポライトネス・ストラテジーは、個人的に親密な関係があれば、下位者によって用いられることができる（②）；

6)「医師と看護師」という職業的関係が絶対の上下関係として言葉遣いを規定し続けるわけではない。年齢や個人的親密さが少なくともポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの選択には影響し得る（②）。

上のような事柄に学習者の関心を向けるためには、どの責め方が最も厳しいと感じられるかについての判断を求めるだけでなく、厳しさや柔らかさという印象がどういう言語的特徴から生み出されているのか、言葉遣いにどのような技巧が見られるか、言葉遣いからどういう背景事情が推測されるかなどを記述するように求めることが必要である。学習者は、③が最も辛辣だということはわかるが、①もかなり辛辣だと考えたり、②の看護師を失礼だと判断したりすることがある。職業的上下関係が絶対不可侵のものではないこと、とは言うものの、冗談を言える関係になっていても文末レベルが維持されるという点は、特に慎重な意識化が必要である。また、職業的上下関係を一種類だけ提示するのでは偏った観念を植え付けることになりかねないため、複数の作品を組み合わせて提供し、多面的な理解を促すことが必要である。

事例２：毛利甚八・魚戸おさむ『家栽の人』「ヒトリシズカ」より

下の会話の夫は少年院の院長で、不良少年達を信頼して頻繁に彼らを遠足に連れ出すのであるが、ときどき少年が脱走することがあり、その度に責任を問われる。またしても脱走未

遂事故が起こってしまった翌日、夫は妻に話しかける。

院長：なあ・・・・

妻：なんですか？

院長：来年当たり、どこかへ飛ばされるかもしれん・・・・

妻：どこだってかまいませんよ。慣れてますから。

院長：3年は落ち着けると思っていたんだが・・人吉か・・

妻：まあ！だったらカラシレンコンを死ぬほど食べられるわね！

院長：佐世保か・・・

院長：それなら有田に柿右衛門の窯を見にいけるわ！　（下線は筆者による）

妻の発話には丁寧体と普通体が混在しているが、夫は一貫して普通体を使用している。女性の方が丁寧度の高い形式をより頻繁に使うことは珍しくなく、この妻も、基本的には丁寧体を使用いるのであろう。にもかかわらず「食べられるわね」「見に行けるわ」で普通体を用いたのは、蜂に刺されて「痛い！」と思わず漏らす場合に見られる「感覚や感情の自発的表出」の用法を技巧的に用いていると考えられる。即ち、相手を意識しない発話のように装って新しい任地に行くのを楽しみにする気持の純粋さを示し、それによって、夫への支持と励ましを表わしているのである。日本的価値観では、「励ます」という行為は相手がそれを必要と傷ついた状況にあることを示唆するという点で FTA(Face Threatening Act)であり得る。その危険性を重大に考えた院長の妻は、夫に直接働きかけることを回避し、掛け値のない感情の吐露という形を取ることによって間接的に励ましている。丁寧体を選択していたら、夫のために無理をしているという印象を与えることになったであろう。

この夫婦の会話を通して次のような語用論的特徴を提示することができる：

1) 「痛い！」のような生理的反応や純粋の感情が自然に発露した発話は、相手を意識して行われるものではないため、常に普通体である。
2) 上のことを技巧的に用いた「疑似自己向け発話」が、相手領域への侵害を避けるストラテジー（ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー）として機能し得る。
3) 日本的価値観においては、「誉める」「慰める」のように相手への好意に基づく発話行為であっても、その行為を必要とする状況が相手側に存在することを示唆するという点で FTA となり得る（山路 2006）ため、配慮が必要である。

学習者にはこの普通体使用の解釈はかなり難しい。「院長という立派な仕事のことではなく、日常的なことが話題になったから」「妻の気が緩んだから」「妻の強い自己主張の表れ」「仕事で失敗した夫に敬意が薄れたから」などと、「普通体は敬意の欠如の表れ」という原則に則っている例が多く見られる（因 2004b、2005a）。また、普通体使用が示す意味について説明を受けた後でも、「なぜもっと明確な形で、夫を励ます発言をしないのか」という疑問を呈す者が多い。このことは、日本的価値観と学習者の社会における価値観との間にズレがあることを明らかにしている。

もし学習者が実生活の中でこうした抑制的表現の事例に接したとすれば、文化的価値観に基づくのではなく発話者の個人的性格によると考えて、その人物に対して「冷たい」といった否定的評価を下すかもしれない。しかも、そうした芳しくない印象はあまりに人に話したりはしないであろうから、訂正されないまま定着してしまう恐れがある。しかし、実際の体験でなくストーリーマンガの人物の行動であれば、否定的評価であっても自由に述べ合って議論することが可能であり、文化的な傾向やそのズレを認識する機会を持つことができる。

筆者の行っている一つのコースは週に一回、13－15 回の授業で構成される。その中で、短編、連作の一回分など、20－30 ページ程度の作品を 10－12 本程度読む。予めタスクシートに沿って個人で読解を行うことを課し、授業時間には音読実演・質疑応答・議論などを行なう。評価は、タスクシートの完成度、クラス参加の積極性、語彙表現クイズ、期末レポートによって行なっている。

4．今後の課題と展望

ストーリーマンガの教材利用を進める上での大きな課題は、適切な作品を選定することと、まだ十分な記述が行われているとは言えない日本語の語用論的側面についての研究を進めることである。台湾出身者を対象とすることを想定した場合に筆者が深甚な関心を持っているのは、台湾で大量に出版されている日本漫画の翻訳の数々である。これらを用いた対照研究から日本語と中国語の言語表現や言語行動の共通性や差異を抽出することができれば、学習者にとって有意義な情報となるだけでなく、分析に用いた作品は教材として利用することができる。マンガの教材利用の方法研究はまだ始まったばかりであるが、大きな可能性を秘めた分野であることは疑いがない。

資料：因京子によるストーリーマンガ教材

★シリーズ１：OL はつらいよ（11 作品）

「気配りの人」「あんぱんと OL」

上の 2 作品『無印 OL 物語』所収、群ようこ原作、和田育子他、角川書店

「10 月の新入社員」「プロフェッショナル」「うるわしの局」

上の 3 作品『9 時から 5 時半まで』逢坂みえこ、Young You 特別企画文庫、集英社

「マラトンの戦い」「赤壁の戦い」「インカの黄金」「アマテラスの戦い」

上の 4 作品『4 階のミズ桜子』上・下、里中満智子、双葉文庫

『うちのママの言うことには』第一話、岩館真理子、Young You 特別企画文庫、集英社

「毎日が夏休み」『つるばらつるばら』所収、大島弓子、白泉社文庫

★シリーズ２：日本の名作（9 作品）

「霧笛」『ウは宇宙船のウ』所収、レイ・ブラッドベリ原作、萩尾望都、小学館漫画文庫

「銀杏の実」『ロングロングケーキ』所収、宮沢賢治原作、大島弓子、白泉社文庫

「夏の夜の獏」『つるばらつるばら』所収、大島弓子、白泉社文庫
「おもかげ行灯」「雨柳堂夢咄　３」波津彬子、朝日ソノラマ文庫
「私の人形はよい人形」『私の人形はよい人形』所収、山岸涼子、文春文庫
「名人二代」『寄席芸人伝　１』古谷三敏、小学館
「イグアナの娘」『イグアナの娘』萩尾望都、小学館文庫
「半神」『半神』萩尾望都、小学館文庫
「夢虫・未草」『ダリアの帯』大島弓子、白泉社

★シリーズ３：働く女性たち（10 作品）

「はじめての手術」「なな子の涙」「医者と看護婦」
上の３作品『研修医なな子』①と④、森本梢子、集英社漫画文庫
「太モモに注射針」「無邪気な彼女は何処へ」
上の２作品『おたんこナース』佐々木倫子、ビッグスピリッツコミックス、小学館
『MAMA』第一話、池谷理香子、Young You コミックス、集英社
「消化訓練」「放水訓練」
上の２作品『火消し屋小町』１と３、ビッグコミックスペシャル、小学館
『雲の上のキスケさん』Part 1 と Part7、鴨居まさね、集英社

★シリーズ４：市井のヒーローたち（10 作品）

「Dr. コトー島に着く」「Dr. コトーまた船に乗る」
以上２作品『Dr. コトー診療所　１』山田孝敏、ヤングサンデーコミックス、小学館
「大日イズム」「じいちゃんのブー」『山口六平太』②と③、林律雄・高井研一郎、小学館
「ヒトリシズカ」「スミレ」『家栽の人』②と⑤、毛利甚八・魚戸おさむ、小学館文庫
「眠れるトド起つ」「静かなる決闘」『怪傑トド課長』①と④、角橋靖人、講談社文庫
「特製極厚カツどんぶり」『ミスター味っ子』①、寺沢大介、講談社文庫
「毎日が夏休み」『つるばらつるばら』所収、大島弓子、白泉社文庫

参考文献

小川早百合(1977)「現代の若者会話における文末表現の男女差」小出詞子先生退職記念編集委員会『日本語教育論集―小出詞子先生退職記念―』凡人社
尾崎喜光(1977)「女性専用の文末形式のいま」現代日本語研究会（編）『女性の言葉・職場編』ひつじ書房
梶原綾乃(2003)「留学生と日本人学生の交流促進を目的としたコミュニケーション教育の実践」『日本語教育』117 号
加藤秀俊(2000)「4つの自由化」国際交流基金国際センター編『日本語の開国』
日下翠(2000)『漫画学のススメ』白帝社

日下翠（2002）『漫画学入門』中国書店
滝浦真人（2005）『日本語の敬語論―ポライトネス理論からの再検討』大修館書店
竹内一郎(2006)『手塚治虫＝ストーリーマンガの起源』講談社
田中共子・藤原武弘(1992)「在日留学生の対人行動上の困難―異文化適応を促進するための日本のソーシャルスキルの検討－」『社会心理学研究』第７巻第２号
因京子（2001）「マンガを用いた日本語教育の視点と方法」『韓日言語文化研究』第２集、韓日言語文化研究会
因京子(2002)「研究留学生を対象とする社会生活技能教育教材－専門日本語教育と並ぶもう一つの課題－」『韓日言語文化研究』第３集、韓日言語文化研究会
因京子(2003)「マンガに見るジェンダー表現の機能」『日本語とジェンダー』第３号、日本語ジェンダー学会
因京子（2004a）「ジェンダー表現の機能」『言葉のからくり：河上誓作教授退官記念論文集』英宝社
因京子・金瑞賢（2004）「韓国人学習者の敬意表現についての認識」『韓日言語文化研究』第５集、韓日言語文化研究会
因京子（2004b）「マンガ読解に見る韓国人学習者の日本語理解」『韓日言語文化研究』第５集、韓日言語文化研究会
因京子（2005a）「日本語学習者の日本語会話解釈上の問題点－日本語学習者によるマンガ理解を通して－」『比較社会文化』第11巻、九州大学比較社会文化学府
因京子（2005b）「女性語のゆくえ：絆として鎧としての女性語の可能性」『言語文化叢書XV：言語と文化のジェンダー』九州大学大学院言語文化研究院
因京子（2005c）「マンガで学ぶ日本語：マンガを使った日本語教育の可能性」日下翠（編）『漫画研究への扉』梓書院
因京子(2005d)「日本語のポライトネス－その制度的側面と語用論的側面」『韓日言語文化研究』第６集、韓日言語文化研究会
因京子(2006a)「談話ストラテジーとしてのジェンダー標示表現」佐々木瑞枝（編）『日本語とジェンダー』ひつじ書房
因京子(2006b)「少女マンガのくれたもの：その主題の魅力」『韓日言語文化研究』第7集
因京子(2007a)「翻訳マンガにおける女性登場人物の言葉遣い：女性ジェンダー標示形式を中心に」『日本語とジェンダー』第7号
因京子(2007b)「文化的素材による受信力重視の日本語教育」『日本語学研究』韓国日本語学会
ホール、エドワード・T.（1993)『文化を超えて』岩田慶治・谷泰訳、ＴＢＳブリタニカ
松村瑞子・因京子(2000)科学研究費補助金研究報告書『日本語の談話におけるスタイル交替の実態とその効果についての分析』九州大学言語文化研究院

山路奈保子(2006)「日本語の『ほめ』についての一考察 —『ほめ』を攻撃的に作用させる要因の分析—」、日本語教育 132 号

Brown P. & Levinson, S.C.(1987) *Politeness: Some universals in language usage.* Cambridge University Press.

Grice, P.(1975) "Logic and conversation" in *Syntax and Semantics* 3, eds. by P. Cole & Jerry Morgan, Morgan, Academic Press.

Gumperz, J.(1987) *Discourse Strategies,* Cambridge University Press.

Leech, G.N. (1983) *Principles of Pragmatics*, Longman, London.